

単元名

「米づくりのさかなな地域—山形県庄内平野—」

- 1 日 時 平成28年9月14日(水) 第5校時
- 2 場 所 第5学年1組教室
- 3 学 級 第5学年1組(男子16名 女子14名 計30名)

単元について

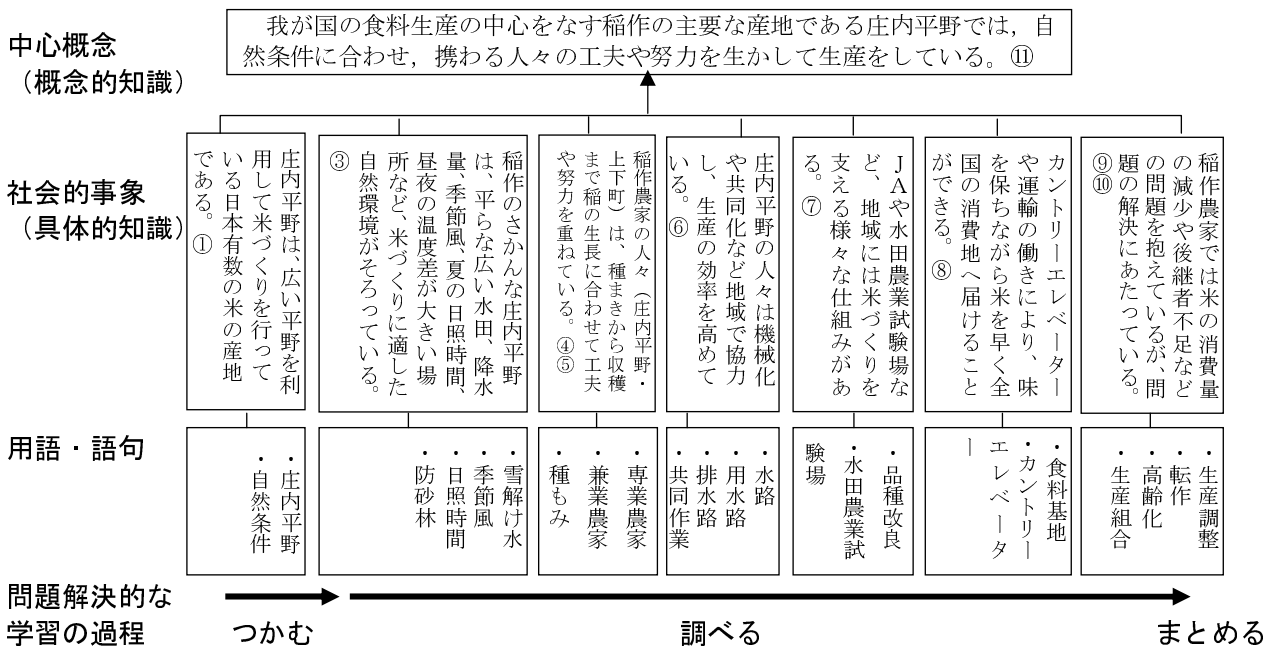
本単元では、我が国の米の生産は国民の食料を確保する重要な役割を果たしており、自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを知り、米の生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働きを理解し、国民生活を支える米の生産の発展を考えることができるようにすることをねらいとしている。また、我が国の米の生産の様子から学習問題をつくり、地図、統計などの資料を活用して調べてまとめるとともに、米の生産と自然環境や国民生活とを関連づけて考え、適切に表現する力を高めることもねらいとしている。

本単元では、米づくりの盛んな地域である山形県庄内平野を具体的事例として取り上げる。米づくりの盛んな地域の人々が消費者の需要にこたえ、良質な物を生産し出荷するために様々な工夫や努力をしていることや、地形や気候などの自然環境や社会的な条件を生かして生産を高める工夫や努力をしていることを学習する。稲作については品種改良や生産の効率を高めるための技術の改良を進めていることや、味の向上や食の安全確保に努めながら生産や出荷を工夫していることを取り上げる。

また、米づくりが盛んな地域では、運輸の働きにより味を保ちながら生産物を早く消費地へ届ける努力をしていることや、生産物の輸送手段や経路、出荷先や出荷量などを判断するために情報を収集していることなどを取り上げ、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きや情報の利用の様子を調べていく。食料を生産する活動とそれらの生産物を運ぶ仕事を関連付けることにより、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きを具体的にとらえさせ、運輸業について理解できるようにする。

これらのことから、本単元は、我が国の米づくりの様子、米づくりと国民生活との関連について理解し、我が国の米づくりの発展を考えていくために重要であると言える。

□ 知識の構造図



○児童観

内 容	結果	分 析
社会的事象への関心・意欲・態度 ・農業に関する経験がある。 ・日本の米づくりについて知っていることがある。 ・朝ごはんの主食は米である。	・57% ・87% ・39%	・57% (17人) の児童は、祖父母や親戚の家で米や野菜、果物などを栽培しており、その手伝いをしたことがあると答えた。約半数の児童にとっては、農業は身近なものであるようだ。 ・米づくりが盛んなのは、東北地方、北海道であることを答えた児童 77% (23人) でほとんどの児童が答えた。多くの児童は、全単元で学習した、「暮らしを支える食料生産」での知識を基に答えていた。また、米づくりは気候に合わせた工夫をしていると答えた児童 3% (1人) 米の生産量が減っていることを答えた児童 3% (1人)。米を食べる人が減って、米が余っていることを答えた児童 3% (1人)。無回答 13% (4人) であった。 ・39% (12人) の児童は、主食にご飯を食べており、60% (18人) の児童は、パンや麺、シリアルなどを食べている。食生活の洋食化が進んでいることが分かる。
社会的な思考・判断・表現 自分の考えを適切に表現する問題 (学期末テスト)	・43% (8割以上正答した児童の割合)	・57%の児童 (17人) は、社会的事象から学習の問題を見いだして、社会的事象の意味を考え、適切に判断する力が十分ではない。 ・示された条件に合わせて表現する問題学習した知識を言葉で表現する力が十分ではない。
観察・資料活用の技能 地図や統計などの資料を活用して必要な情報を集め、読み取る問題 (学期末テスト)	・70% (8割以上正答した児童の割合)	・30%の児童 (9人) は、地図・統計などの各種の資料を効果的に活用する力が十分ではない。
社会的事象についての知識・理解 米づくりについての既習事項についての問題 (暮らしを支える食料生産単元末テスト)	・80% (8割以上正答した児童の割合)	・20%の児童 (6人) は、我が国の主な食料生産の分布や、土地利用の特色などが十分理解できていない。

○指導観

(1) 思考・判断・表現する力を高める学習活動の工夫を行う

資料を活用して調べたことや社会的事象の意味について考えたことを、根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現させることで自分の思考を整理することができるようにする。

また、ペアトークやグループトーク、全体交流など、自分の考えを友達に説明したり、友達の考えを理解したりする場面を設定することで、自分の考えをより整理したり、友達の考えを解釈したりする力を高めることができるようにする。また、なぜそう考えたのかを人に伝えようとする中で、論理的、批判的に考える力を高めることもできるようにする。

(2) 観察・資料活用の技能を高める学習活動の工夫を行う

資料から必要な情報を読み取る活動を行う時には、調べる目的を明確にして、資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえ、複数の資料を関連付けて読み取るようにする。また、必要な資料を収集したり選択したりする。このような活動を通して、資料を活用する技能を高めるとともに、自分の思考を深めることができるようにする。

(3) 栄養教諭と連携し、他教科や食育との関連を図る

庄内平野の米づくりについて学習した後、本校の学校給食に使われている米を生産している上下町の生産者と交流することで、それぞれの地域の共通点や相違点を見出し、米づくり種まきから収穫まで稲の生長に合わせて工夫や努力を重ねていることに気付くことができるようにする。同時に、自分たちの食生活は、生産者をはじめ多くの人々の苦労や努力に支えられていることに感謝し、日常の食事は、地域の農林水産物と関連していることに気付くことができるようにする。

また、家庭科と関連を図り、米の消費量を増やす方法として米を使った献立を考える活動を設定することを通して、我が国の米の生産の発展を考えることができるようにする。どちらの活動も栄養教諭と連携し、児童にとって身近な学校給食を起点にすることで、府中市の米づくり、そして我が国の米の生産へと円滑に社会的事象への関心が高まるようにする。

単元の目標

- 我が国の農業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食糧を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりをもって営まれていることを考えるようにする。
- ・食糧生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き

単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none">・我が国の米の生産の様子に関心を持ち、庄内平野を事例として意欲的に調べている。・国民生活を支えている我が国の米の生産の発展を考えようとしている。	<ul style="list-style-type: none">・我が国の米の生産の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。・米の生産と自然環境や国民の生活とを関連づけて、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかわりをもって営まれていることを考え適切に表現している。	<ul style="list-style-type: none">・地図や統計などの資料を活用して、米の生産に従事している人の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きについて必要な情報を集め、読み取っている。・調べたことを白地図や「米づくり事典」などの作品にまとめている。	<ul style="list-style-type: none">・我が国の米の生産は国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや、我が国の米の生産は自然環境と深いかわりをもって営まれていることを理解している。・米の生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働きを理解している。

本単元と関連のある教科・指導内容

家庭科

- 栄養を考えた食事について、次の事項を指導する。
 - ・体に必要な栄養素の種類と働きについて知ること
 - ・食品の栄養的な特徴を知り、食品を組み合わせるとる必要があることが分かること
- 調理の基礎について、次の事項を指導する
 - ・調理に関心を持ち、必要な材料の分量や手順を考えて、調理計画を立てること
 - ・米飯及びみそ汁の調理ができること

食育の視点

- 感謝の心（食物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々への感謝の心をもつ。）
 - ・食生活は、生産者をはじめ多くの人々の苦労や努力に支えられていること
- 食文化（地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。）
 - ・日常の食事は、地域の農林水産物と関連していること

単元の指導計画

(全11時間)

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	☆評価計画
学習問題をつかむ	①庄内平野をたずねて p. 74～75 庄内平野はどのようなところなのだろうか。(1時間)	○写真や地図から、庄内平野がどのようなところなのかを読み取り、気付いたことや、わかったことを発表し合う。 ・庄内平野は、日本海に面した日本有数の米づくりのさかんな地域になっている。 ・平野や広く、ほとんどが水田になっている。 ・水田がきれいな長方形になっていて、平らな広い土地で米づくりが行われている。 ・水田の周りに見える山や川などの地形や気候などの自然条件も米づくりに大切なのではないか。 庄内平野は、広い平野を利用して米づくりを行っている日本有数の米の産地である。①	◆写真や地図から庄内平野の様子について気付いたことやわかったことを発表させ、米の生産の様子に関心がもてるようにする。	☆〈関意態〉 我が国の米の生産の様子に関心をもち、庄内平野を事例として意欲的に調べようとしている。(ノート記述の分析)
	②米づくりのさかんな庄内平野 p. 76～77 庄内平野の米づくりに関する資料を見て話し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てよう。(1時間)	○鳥瞰図や統計資料を読み取り、わかったことや疑問に思ったことから学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ・鳥瞰図からも庄内平野一体に水田が広がっていることがわかる。 ・庄内平野は日本の中でも水田のわりあいが高く、米づくりがさかんな地域といえる。 ・ほ場整備が進んでいるのは、地域で協力して米づくりを進めているからではないか。 学習問題 庄内平野で米づくりをしている人々は、どのようにしてよりよい米を生産し、消費者にとどけているのだろうか。	◆鳥瞰図や統計資料から、庄内平野が我が国を代表する米の産地であることに気付かせ、学習問題につなげる。 ◆予想や学習計画の立て方を活用し、実践的に学べるようにする。	☆〈思判表〉 鳥瞰図や統計資料から読み取ったことをもとに、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。(ノート記述の分析)
調べる	③地形と気候を生かす p. 78～79 庄内平野は、どうして米づくりに適しているのだろうか。(1時間)	○庄内平野で米づくりがさかんなわけを、写真や地図、資料などをもとに調べて、米づくりと自然環境とのかわりについて話し合う。 ・川が運んでくる土と雪解け水が庄内平野の米づくりを支えている。 ・夏にふく季節風が丈夫な苗を育てることに役立っている。 ・土地利用図からも平野のほとんどが田として使われていることがわかる。 ・酒田市は降水量が多く、夏の日照時間が長い。 ・庄内平野の自然環境は米づくりに適している。 稲作のさかんな庄内平野は、平らな広い水田、降水量、季節風、夏の日照時間、昼夜の温度差が大きい場所など、米づくりに適した自然環境がそろっている。③	◆写真や地図、資料と教科書の本文を関連づけながら読み取らせ、米づくりと自然環境のかかわりについて気付けるようにする。 ◆防砂林や整備された耕地の様子から、米づくりに適した自然環境にするための人々の努力にも目が向くようにする。	☆〈技能〉 地図や統計などの各種の資料を活用して、米づくりに適した自然条件や人々の努力について必要な情報を集め、読み取っている。(ノート記述の分析) ☆〈知理〉 庄内平野の米づくりは自然環境と深いかわりがある。(ノート記述の分析)
	④岡部さんの200日 p. 80～81 岡部さんの米づくりににはどのような工夫や努力があるのだろうか。(1時間)	○専業農家である岡部さんの話や資料、インターネットを活用し、米づくりの仕事について調べ、農作業暦にまとめる。 ・米づくりは2年前の種もみ選びから始まっている。 ・3月から10月まで、稲の育ち具合に合わせた作業をし、大切に育てている。 ・作業ごとにいろいろな機械を使って、効率的に仕事をしている。 稲作農家の人々は、種まきから収穫まで稲の生長に合わせて工夫や努力を重ねている。④	◆稲の生育にかかわる工夫と機械化などの効率化にかかわる工夫があることに気付けるようにする。 ◆「まなび方コーナー」を活用し、調べたことや考えたことなどを農作業暦にまとめ、米づくり農家の工夫や努力に目が向くようにする。	☆〈技能〉 農家に手紙を出したり、インターネットや教科書の資料などを活用したりして、農家の工夫や努力について必要な情報を集め、読み取っている。(ノート記述の分析) ☆〈知理〉 米をつくる農家では、生産を高めるために工夫して稲を育てたり、作業の効率化を行ったりするなどの工夫や努力をしていることを理解している。(ノート記述の分析)

<p>⑤上下町の生産者さんの200日</p> <p>給食で食べているお米を作ってくださいという上下町の生産者さんはどのようにふうや努力をされているのだろうか。(1時間)</p>	<p>○自分たちが食べている米の生産者さんの話を聞き、庄内平野の米づくりとの共通点や相違点を見つけろ。</p> <p>○上下町生産者さんの米づくりに対する工夫や努力、思いを聞き、自分の考えをまとめる。</p> <p>上下町の稲作農家の人々は、庄内平野の農家と同じように種まきから収穫まで稲の生長に合わせて工夫や努力を重ねている。⑤</p>	<p>◆前時の学習と比較して、共通点や相違点を見つけろことができるようにする。</p> <p>◆上下町生産者との交流を通して、稲の生育にかかわる工夫や、給食に使用する桶目をつくる思い、米づくり農家の工夫や努力をより感じることができるようにする。</p>	<p>☆〈知理〉</p> <p>米をつくる農家では、生産を高めるために工夫して稲を育てたり、作業の効率化を行ったりするなどの工夫や努力をしていることを理解している。(ノート記述の分析)</p>
<p>⑥米づくりと地域の協力</p> <p>p. 82~83</p> <p>農家の人々は、よりよい米づくりのために、どのように協力しているのだろうか。(1時間)</p>	<p>○庄内平野の農家の人たちが、よりよい米づくりのためにどのように協力し合っているかを調べ、協力し合うわけについて考えて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のすべての田にむだなく農薬をまくために、小型のヘリコプターを地域の人たちでお金を出し合い、使っている。 ・高い農業機械も地域の人たちが共同で持ち、効率よく米づくりを進めている。 ・肥料をまく時期や水の管理についても、みんなで話し合い、共同作業をしている。 <p>庄内平野の人々は機械化や共同化など地域で協力し、生産の効率を高めている。⑥</p>	<p>◆高額な機械や特殊技能を要する機械、水の管理など、農家同士の協力が不可欠であることに気付けるようにする。</p> <p>◆技術の継承や向上という視点にも目が向くようにする。</p>	<p>☆〈技能〉</p> <p>地図や統計などの資料を活用して、庄内地方の農家同士が協力して生産を高める工夫をしていることについて必要な情報を集め、読み取っている。(ノート記述の分析)</p> <p>☆〈知理〉</p> <p>庄内地方の農家が、作業の効率化や技術の継承・向上のために、様々な作業や機械、設備の利用、生産技術の研究などの面で協力し合っていることを理解している。(ノート記述の分析)</p>
<p>⑦庄内地方の農家を支える人たち</p> <p>p. 84~85</p> <p>農家の人々を、だれがどのように支えているのだろうか。(1時間)</p>	<p>○農業協同組合(JA)や水田農業試験場などが、どのように米づくり農家の人々を支えているかを調べて、わかったことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JAから高額な農業機械を買うときにお金を借りたり、機械や肥料を買ったりできるので、米づくりが進めやすい。 ・JAの営農指導員は、米づくりで困ったときに相談にのってくれたり、注意事項などをアドバイスしたりしてくれる。 ・水田農業試験場では、品種改良や有機農業の研究をし、生産者や消費者のニーズに合った米を開発している。 ・土地や気候に合わせて、おいしく育てやすい米づくりができるための取組が昔から続いている。 <p>JAや水田農業試験場など、地域には米づくりを支える様々な仕組みがある。⑦</p>	<p>◆農業協同組合や水田農業試験場の仕事を調べ、米づくり農家をどのように支えているか考えるようにする。</p> <p>◆米づくりの発展への取組が昔から続いていることにも気付けるようにする。</p>	<p>☆〈技能〉</p> <p>地図や統計などの資料を活用して、庄内平野の米づくりを支える農業協同組合や農業試験場の役割について必要な情報を集め、読み取っている。(ノート記述の分析)</p> <p>☆〈知理〉</p> <p>庄内平野の米づくりは、農業協同組合や水田農業試験場など、様々な仕組みによって支えられていることを理解している。(ノート記述の分析)</p>

<p>⑧おいしい米を全国に p. 86～87</p> <p>庄内平野の米は、どのように消費者にとどけられるのだろうか。 (1時間)</p>	<p>○庄内平野の米が消費者にとどけられるまでの様子を調べて、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きや、米づくりにかかる費用や価格について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カントリーエレベーターで味を保った状態で保管された米は、全国各地へ出荷されている。 ・庄内平野は、日本の主食を生産する大切な食料基地の一つになっている。 ・トラックや列車、フェリーなどの運輸の働きによって、全国に米がとどけられている。 ・米の値段には、生産のほか、輸送や販売などの費用が含まれている。 <p>カントリーエレベーターや運輸の働きにより、味を保ちながら米を早く全国の消費地へ届けることができる。⑧</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆カントリーエレベーター内での米の流れを確認し、味を保ちながら保管する役割を果たしていることに気付けるようにする。 ◆庄内平野の米の送り先と日本の交通網を関連づけて読み取らせ、運輸の働きが重要であることに気付けるようにする。 	<p>☆〈技能〉 地図や統計などの資料を活用して、味を保ちながら早く全国に届けるための工夫について必要な情報を集め、読み取っている。 (ノート記述の分析)</p> <p>☆〈知理〉 運輸の働きによって米が消費地まで届けられることや、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きが国民生活を支えていることを理解している。(ノート記述の分析)</p>
<p>⑨農家のかかえる問題 p. 88～89</p> <p>農家の人たちはどのような問題をかかえているのだろうか。 (1時間)</p>	<p>○農家のかかえる問題について資料から読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産調整をして、消費量に合わせて米の生産量を減らしている。 ・農家をやめる人が増え、農家の数は減ってきている。 ・農業をつぐ若い人が少なく、高齢化が進んでいる。 ・米の消費量を増やしていかないといけない。 <p>稲作農家は、米の消費量の減少、農家数の減少、高齢化などの問題をかかえている。⑨</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆資料から読み取ったことと本文を関連づけ、消費量の減少が日本の稲作のかかえる様々な問題を引き起こしていることに気付くことができるようにする。 	<p>☆〈思判表〉 資料関連させて、読み取ったことを基に、米づくりのかかえる様々な問題や原因を考えている。(ノート記述の分析)</p> <p>☆〈関意態〉 我が国の米の生産の様子に関心をもち、意欲的に調べている。(ノート記述の分析)</p>
<p>⑩これからの米づくり</p> <p>米づくりの問題を解決していくには、どうすればよいだろうか。 (1時間)</p>	<p>○これからの米づくりについて自分が考えたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米の消費量を増やすために、新たな食べ方や活用方法を考えている人たちがいる。新しい提案を今後もしていくと、消費量が増えていくのではないかな。 ・高校生が農業を学ぶ機会をもち、農業を行う若い人を増やす取組がある。若い人に米づくりの大切さを伝えていく必要がある。 ・農業体験ツアーは、環境の学習にもなる。 ・生産者と消費者の交流をして、米づくりの大切さを理解する。 ・お米を使ったレシピを提案する。 <p>①消費者がもっと米を食べる。②米の様々な活用方法を考える③後継者を育成する。④農業に関心を持つ。ことから始めればよい。⑩</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆実際に行われている問題を解決するための取組を参考にし、米づくりの提案を考えることができるようにする。 	<p>☆〈思判表〉 米づくりのかかえる様々な問題から、今後の発展のために消費量を増やすことが有効なことや、そのためにどのような取組ができるか考え適切に表現している。(ノート記述の分析)</p> <p>☆〈関意態〉 実際に行われている取組や他の児童の意見を参考にし、これからの米づくりの発展について考えようとしている。(ノート記述の分析)</p>

<p>まとめ</p>	<p>⑩「米づくり事典」をつくる p. 90～91</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>米づくりがさかんな庄内平野の人たちのくふうや努力について考え、まとめましょう。 (1時間)</p> </div>	<p>○これまでの学習をもとに、米づくりがさかんな庄内平野の人たちの工夫や努力について考え、「米づくり事典」にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械化による効率化 ・自然環境を生かして ・地域の共同作業 ・農家を支える人たちとともに ・おいしく育てやすくするための品種改良 ・食料基地としての庄内平野 ・専業農家と兼業農家 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>我が国の食料生産の中心である稲作の主要な産地である庄内平野では、自然条件に合わせ、米づくりに携わる人々が様々な工夫や努力をしている。⑩</p> </div>	<p>◆「ことば」を活用して表現させることによって、これまで学習したことを生かせるようにする。</p> <p>☆〈知理〉 これまでの学習をもとに、庄内平野の米づくりは自然条件と深いかわりがあること、また人々が生産を高めるために様々な努力や工夫をしていることを理解している。(ノート記述の分析)</p> <p>☆〈技能〉 これまでの学習を生かし、写真やグラフなどの資料を活用し庄内平野の米づくりの工夫や努力について「米づくり事典」にまとめている。(ノート記述の分析)</p>
------------	--	---	--

本時の学習

(1) 本時の目標

○我が国の米の生産の様子に関心を持ち、資料を関連させて、農家のかかえる問題について読み取ることができるようにする。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (☆) (評価方法)
1 つかむ		
<p>1 学習課題をつかむ。</p> <p>○給食で一日に使うお米の量について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;"> <p>1回で使う米の量 260 kg 1年間で使用する米の量 32 t</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの米が使われている。 ・一週間に 3 日ご飯の日があるから、よく食べていると思う。 <p>○府中市の米の生産量のグラフを見て気付きを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産量が平成 7 年から減っている。 ・給食で府中市の米が食べられるようになったのに作る量は減っている。 ・なぜだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;"> <p>農家の人たちはどのような問題をかかえているのだろうか。</p> </div> <p>○3つの資料から読み取れることを出し合い、問題発見の見通しをもつ。</p> <p>①の資料から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産量を消費量が上回っている年や逆に下回っている年がある。 ・消費量が減ってきている。 <p>②の資料から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の数が減っている。 ・特に専業農家が減っていて、自給的農家というのが出てきた。 <p>③の資料から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家で働く人が減っている。 ・働く人の半分以上が 60 才以上で、若い人が少ない。 	<p>(T1) 給食の写真を提示し、以前交流した上下町の生産者のことを想起させて本時の学習導入することで、米の問題をより身近に感じることができるようにする。</p> <p>(T2) 具体例を出しながら、給食で 1 回に使う米の量と 1 年間で使用する米の量を示すことで、多くの米が消費されているという考えを感覚的に持たせることで、資料 (現実) とを見たときに疑問を持つことができるようにする。</p> <p>(T1, 2) 府中市の米を平成 22 年 (本格導入) から給食に導入したこと伝えることで、たくさん消費していると思っていた米が、生産量が減っている事実から、稲作農家が問題を抱えているのではないかという思いをもち、課題設定をすることができるようにする。</p> <p>(T1) 資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえ、複数の資料を関連付けて読み取るようにすることで、資料活用の技能を高めることができるようにする。</p>	
2 考える		
<p>2 自力解決する。</p> <p>○資料から読み取った事実から、どんな問題があるか予想し、自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産量を一定にするのは、自然の条件もあるから難しい。 ・米が余るということは、たくさん作っても売れなくて困る。 ・米を消費する量が減っているから、米づくりだけでは生活できない。 ・米を食べる人が減ってしまい、米が売れなくて困る。 ・農家で働く若い人が少ないということは、将来米づくりをする人がいなくなってしまう。 	<p>(T1) 「~だと〇〇なので困る。」「~だと〇〇だから問題。」というように、見通しで出し合った事実から自分の考えを簡単にまとめさせることで、問題点を整理することができるようにする。</p> <p>(T1, 2) 机間指導し、話型のかかれたワークシートを渡し、思考の進まない児童に助言するようにする。</p>	
3 深める		

15分	<p>3 グループで交流する。</p> <p>○考えた問題点を交流し、どうしてこのようなことが起きているのか3つの資料を組み合わせたり、その他の資料や米の生産者の方から聞いた内容を関連させたりして問題の原因を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①（1969年頃）と「ことば」を組み合わせると、米が余っていたことから、生産調整が行われて、田が減ったことが消費量減少の原因じゃないか。 ・①と②の資料を合わせて考えると、米が余って売れないから、農家の数が減ったのだと思う。 ・農家が減ると生産量をもっと減る。 ・専業農家が減ってほとんどが兼業農家。 ・農業だけでは生活できないから、兼業農家や自給的農家が増えてきたのだと思う。 ・②と③を組み合わせると、今も農家の数は減っているのに、若い人が農業をやらないと、将来的にはもっと生産者が減って、生産量も減る。 ・資料④の自分たちのアンケートの結果を見ると、食生活が変化してきているのが分かる。米を食べなくなったのだと思う。 	<p>(T1) ペアトークやグループトーク、全体交流など、自分の考えを友達に説明したり、友達の考えを理解したりする場面を設定することで、自分の考えをより整理したり、友達の考えを解釈したりする力を高めることができるようにする。また、なぜそう考えたのかを人に伝えようとする中で、論理的、批判的に考える力を高めることもできるようにする。</p> <p>(T2) 児童の主食アンケートの結果を新たな資料として提示することで、自分たちの食生活が多様化・洋食化していることに気付くことができるようにする。</p>	
4 振り返る			
10分	<p>4 本時の学習のまとめを行う。</p> <p>○交流したことを基に、課題に対するまとめを行い、次時への課題を設定する。</p> <div data-bbox="231 1025 742 1102" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>稲作農家は、米の消費量の減少、農家数の減少、高齢化などの問題をかかえている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・この問題は農家の人たちだけでは解決できない。 ・自分たちにできることはないだろうか。 <div data-bbox="231 1211 742 1288" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>米づくりの問題を解決していくには、どうすればよいだろうか。</p> </div> <div data-bbox="231 1288 742 1556" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(成長・理解) わたしは、米は身近なもので、よく食べている気がしていましたが、日本全体を見ると、消費量が減っていることが分かりました。米が余っていた時代も合ったけど、そのせいで生産調整が行われ、生産量が減ってしまいました。農家の減少や食生活の変化により、米づくりは今とても大変だということが分かりました。</p> <p>(友達・協力) グループで交流すると、自分では気付かなかったところについて考えている友達がいたので、その意見を聞くのが面白かったし、考えが広がりました。</p> <p>(活用・発展) 農家がかかえる問題は、自分たちの食生活にもとても関わりが深いことが分かったので、消費者として、米の消費量を増やす方法を考えたいと思いました。</p> </div>	<p>(T1) 本時の課題を見つめ直し、農家がかかえる問題について根拠とともに整理することで、広がった思考をまとめることができるようにする。</p> <p>(T1) 本時の学びを振り返ることで、学びの価値を自覚することができるようにする。</p>	<p>☆〈思判表〉 資料関連させて、読み取ったことを基に、米づくりのかかえる様々な問題や原因を考えている。(ノート記述の分析)</p> <p>☆〈関意態〉 我が国の米の生産の様子に関心を持ち、意欲的に調べている。(ノート記述の分析)</p>

(3) 板書計画

9/14	米づくりのさかんな地域	課農家の人たちはどのような問題をかかえているのだろうか。				農家（生産者）がかかえる問
		資料①	資料②	資料③	資料④	ま稲作農家は、米の消費量の減少、農家数の減少、高齢化などの問題をかかえている。
		全体 生産量減 消費量減 部分 生>消 余 生産調整 水田を減らして生産量を減らす政策	全体 農家の数減 部分 専業農家減 ほとんどが兼業農家 自給的農家増 農業だけでは生活できない	全体 農業で働く人減 部分 60才以上>若い人 高齢化 後継者不足⇒日本で米が作られなくなる	ご飯以外の主食 食生活の洋食化 ↓ 消費量減	日本（われわれ消費者）がかかえる問題
					米づくりの問題を解決していくにはどうすればよいだろうか。	

※導入で示す、給食の写真や給食の米の量、府中市の米の生産量の年次グラフなどは、大型テレビを使って示す。